

**2022年3月期
連結決算説明資料**



株式会社オリジン

証券コード:6513

2022年5月24日

目次

1. 2023年3月期に向けて ……p. 3
2. 決算概況 ……p. 9
3. 事業の「新たな挑戦」
 - メカトロニクス事業 ……p.14
 - コンポーネント事業 ……p.19
 - ケミトロニクス事業 ……p.23
 - エレクトロニクス事業 ……p.27
 - 半導体デバイス事業 ……p.31
4. 研究開発の方向性について ……p.34



株式会社オリジン

証券コード:6513

2022年3月期 連結決算説明資料

2022年5月24日



ご案内

経営企画本部 部長 (IR・サステナビリティ統括)

田中紀夫

2023年3月期に向けて

2022年3月期
連結決算説明資料
2022年5月24日



株式会社オリジン

証券コード: 6513



代表取締役社長
妹尾 一宏

当社を取り巻く環境

2023年3月期に向けて



調達難

産業界での部品原材料調達難に起因する製造遅延が、当社製品の出荷および当社製造に必要な部材の入荷が滞る原因となっている

お客様・調達パートナーと協働歩調でサプライチェーンとしての課題解決に積極的に取り組む

原材料価格の高騰

原油を初めとする原材料価格高騰により当社の製造コスト増につながり価格競争力に影響が出る要因になっている

より一層の原価低減と調達手法を抜本的に見直すことで皆さまの期待に応える

サステナビリティ関連

2023年3月期に向けて



オリジングループの調達方針

オリジングループ調達基本方針

オリジングループ（当社のサプライチェーンに含まれる子会社及び現地法人等を含みます）の調達基本方針は以下のとおりです。

1. 憲法
国内外の法令や社会規範の遵守、社会貢献の実現に向け、取り組みます。
2. 社会物責任
調達充ならびに調達品選定等の際には環境負荷低減に十分配慮した調達活動を実施します。
3. 公正
調達パートナー様に対して公正な取引の機会を提供します。
4. 公平・誠実
調達パートナー様と、相互理解と信頼関係に基づく調達活動を実施します。

オリジングループが調達パートナーとして尊重する基本方針

オリジングループ（以下、当社とし、当社のサプライチェーンに含まれる子会社及び現地法人等を含みます）は、取引開始にあたって、以下の6条件を満たしている企業から優先的に調達し、継続取引の府も重視します。調達パートナーの皆様と相互理解を深め、信頼関係を築くよう努力し、共に歩んで参ります。

- (1) 国内外の法令や社会規範を遵守し、人権、環境への配慮を重視していること。
- (2) 経営状態が健全であること。
- (3) 当社に供給頂く資材・役務の品質、価格、納期が適正な水準にあること。
- (4) 安定的に供給する能力と、需給が変動した場合への柔軟な対応力があること。
- (5) 当社製品に貢献できる技術力を有していること。
- (6) 不測の災害等が発生した場合でも、継続的な供給にご協力いただけること。

COMMUNICATION
ON PROGRESS



This is our **Communication on Progress** in implementing the Ten Principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.



事業構造からみる課題

新製品開発力

自動車関連分野への強化

中国市場環境への対応

成熟事業の活性化

新規事業への挑戦



Change & Growth 2026

中計
初年度

新たな
挑戦

6つの変
革で成長

リスクマネジメント

2023年3月期に向けて



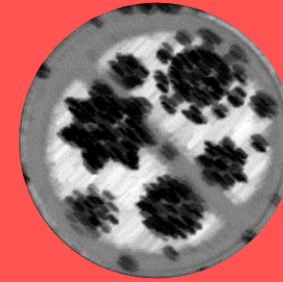
人材不足



異常気象
自然災害



サイバー
攻撃



パンデミック
蔓延



原材料原油
価格の高騰



決算概況



株式会社オリジン

証券コード: 6513



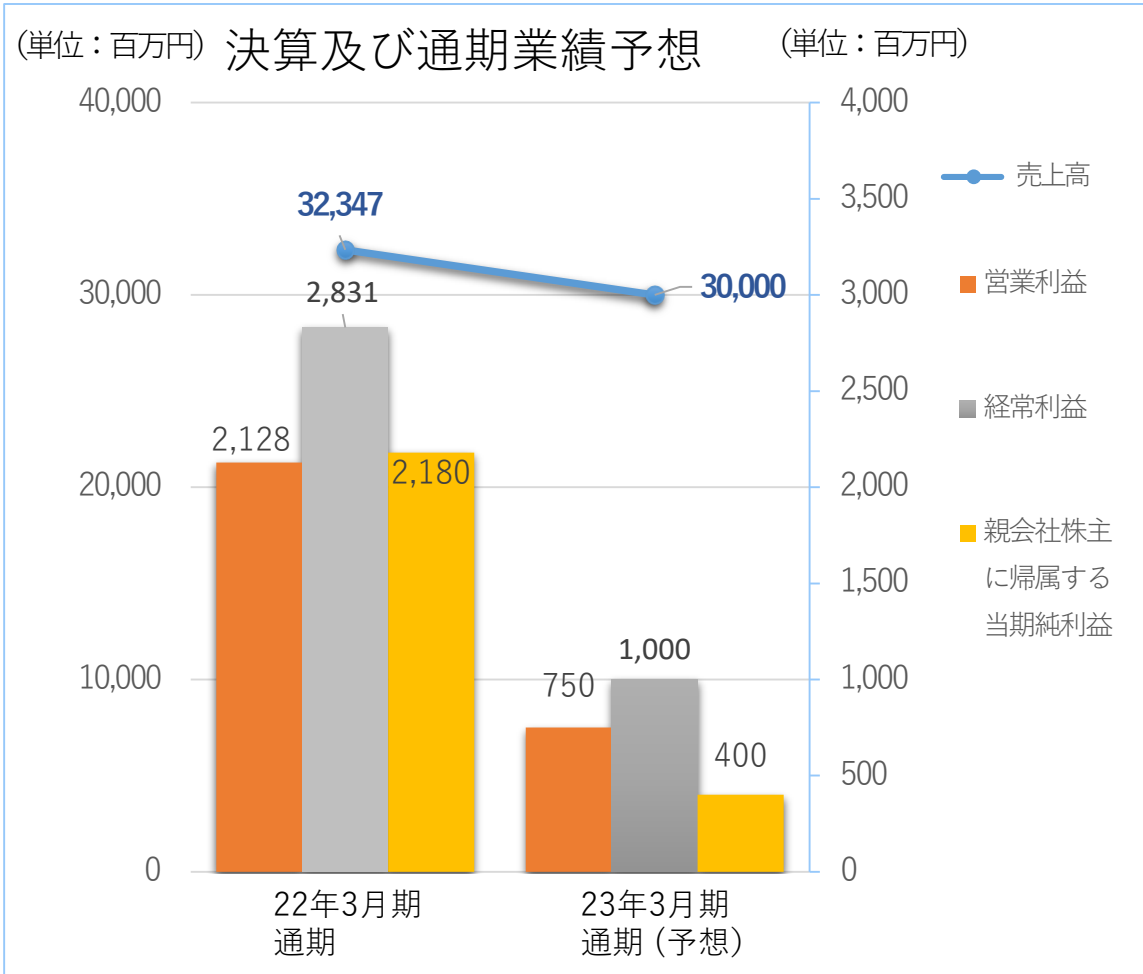
執行役員 経理部長
赤松 敦

2022年3月期
連結決算説明資料
2022年5月24日

決算及び通期業績予想

2022年は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前期と比べ、5事業とも増益

2023年通期業績予想は、半導体不足、原材料価格の上昇や中国経済減速等により、利益面は厳しい見通し



決算ハイライト

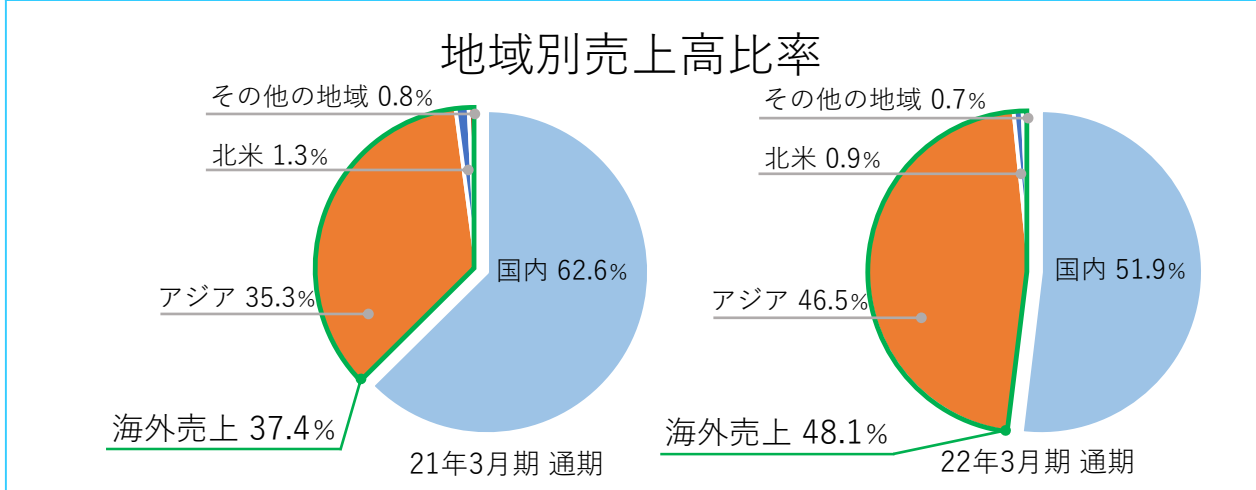
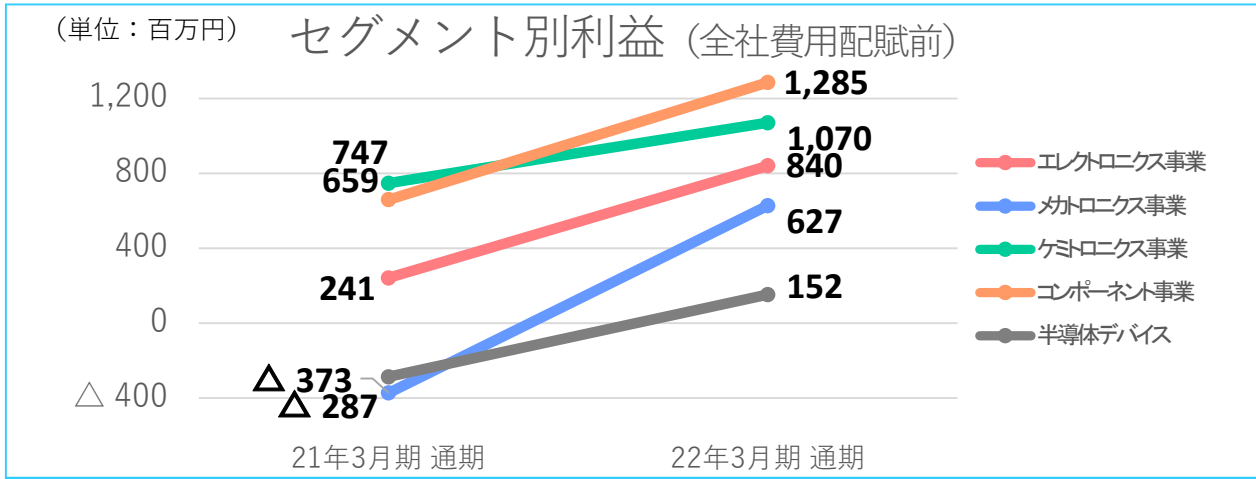
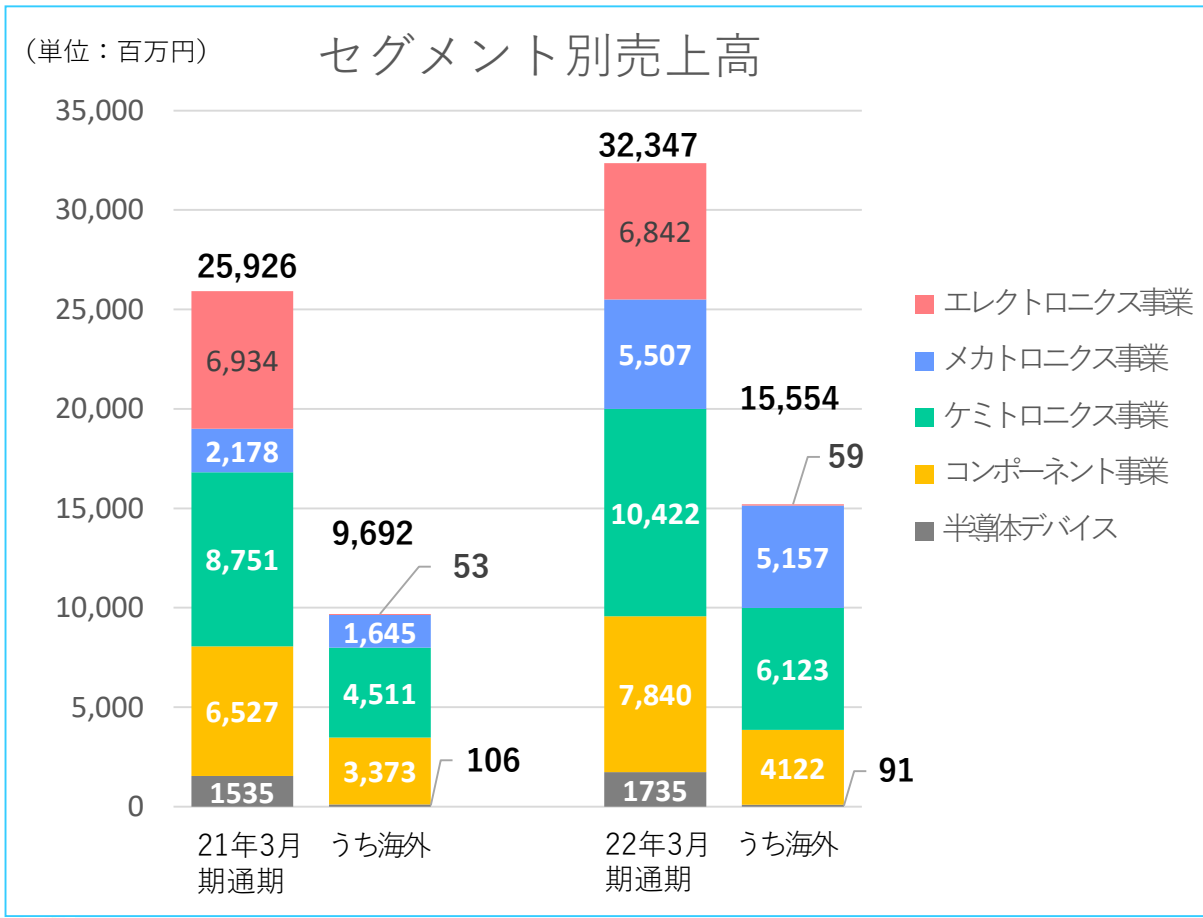
(単位：百万円)

	21年3月期通期	22年3月期通期	前期増減率
売上高	25,926	32,347	24.8%
営業利益	△904	2,128	—
経常利益	△518	2,831	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,156	2,180	—
1株当たり当期純利益	△184.72	351.35	

(単位：円)

セグメント別状況

- エレクトロニクス事業** : 部品調達難による生産遅延により減収となるも、医療用電源、半導体製造装置用電源が堅調に推移し増益
- メカトロニクス事業** : 前期にウェアラブル市場へ投入した光学レンズ貼合装置が大きく寄与し大幅な増収増益
- ケミトロニクス事業** : 半導体調達難に伴う自動車メーカーの減産による厳しい状況が国内で継続も、海外子会社が好調に推移し増収増益
- コンポーネント事業** : 産業機器向けが堅調に推移、金融機器、事務機器関係向けが復調したことに加え、4Qからは自動車向けも売りがり増収増益
- 半導体デバイス事業** : 半導体製造装置市場、工作機械市場を中心とした産業機器関係好調に推移し増収増益



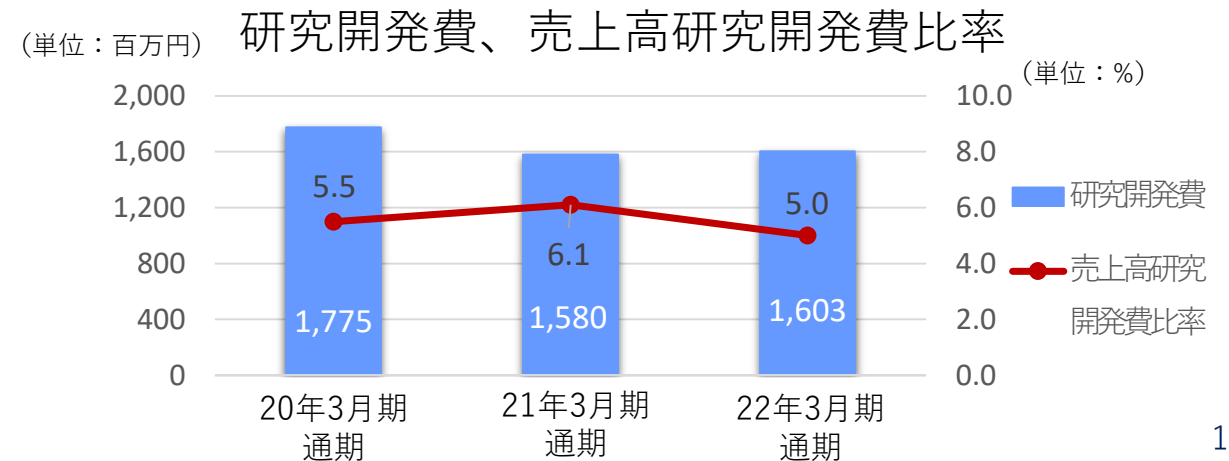
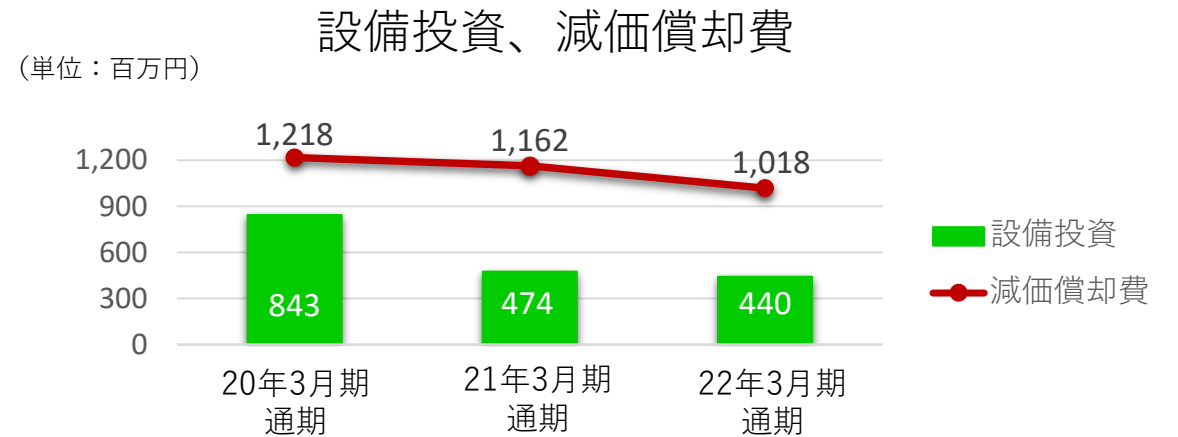
キャッシュ・フロー、設備投資、減価償却費、研究開発費

営業活動によるCF : 税金等調整前当期純利益の計上、仕入債務の増加
 投資活動によるCF : 定期預金の純減少額
 財務活動によるCF : 長期借入金の返済、非支配株主への配当金の支払額

22年3月期の主な設備投資 : コンポーネント事業の生産設備
 売上高研究開発費比率 : 売上高増加に伴い1.1%減少

(単位:百万円)

キャッシュ・フロー	21年3月期 通期	22年3月期 通期	前期 増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	△488	1,655	2,144
投資活動による キャッシュ・フロー	91	1,756	1,665
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,325	△1,134	191
現金及び現金同等物の 増減額 (△減少)	△1,689	2,733	4,423
現金及び現金同等物の 当期末残高	5,021	7,755	2,733



貸借対照表、配当の状況

- 流動資産増加の主な要因 : 現金及び預金25億2千4百万円の増加、たな卸資産23億8千4百万円の増加
 流動負債増加の主な要因 : 仕入債務21億4千8百万円の増加、流動負債のその他5億5千3百万円の増加
 純資産増加の主な要因 : 利益剰余金19億6千8百万円の増加、為替換算調整勘定6億3千5百万円の増加

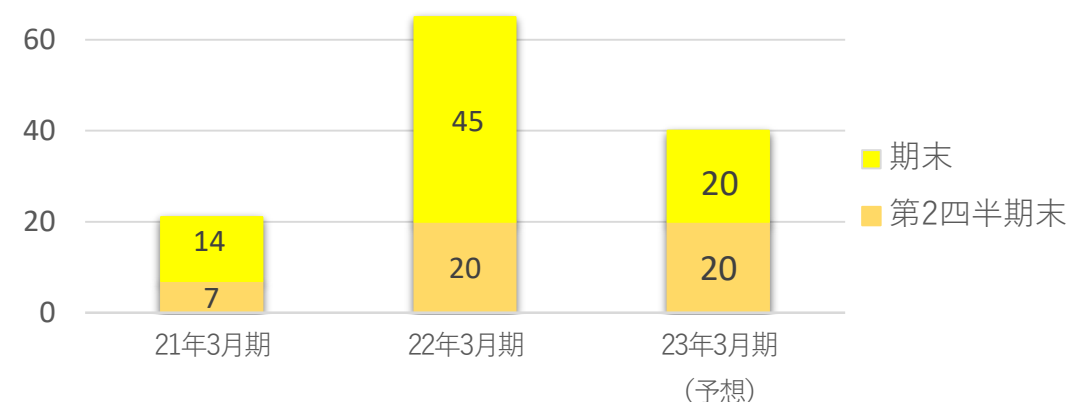
貸借対照表

(単位：百万円)

	21年3月期末	22年3月期末	前期末 増減額
流動資産合計	23,943	30,058	6,114
固定資産合計	16,949	16,605	△883
資産合計	40,893	46,123	5,230
流動負債合計	8,223	11,263	3,040
固定負債合計	9,104	8,460	△644
負債合計	17,328	19,724	2,395
純資産合計	23,565	26,399	2,834
負債純資産合計	40,893	46,123	5,230
自己資本比率	51.8%	51.7%	△0.1%

(単位：円)

配当の状況



22年3月期の配当の状況については、業績見通し・外部環境の変化などを総合的に勘案し、1株当たり年間65円を予定。

※ 23年3月期の配当金については、年間40円（中間、期末とも20円）を予定

《自己株式の取得》 2022年5月11日決議

取得する株式の総数 300,000株（上限）

株式の取得価額の総額 400,000,000円（上限）

取得期間 2022年5月12日～2023年3月31日



株式会社オリジン